

2018年4月5日刊行

『シリーズ21世紀の農学』 大変動時代の食と農

日本農学会編

出版：養賢堂

近年、地球規模での気象異変による食料生産の不安定化、急増・流動化する世界人口と食料消費構造の変化、人類の生産活動によって引き起こされる環境問題など、さまざまな環境の変動が、農業・食料生産を脅かすようになっている。そこで、シンポジウムでは、農・食の生産を脅かす地球規模の環境変動と、その克服・解決を目指した研究の取り組みを紹介し、大変動時代においても安定して安全な食料を生産するために、農学が果たす役割についてアピールする契機とした。この本は、シンポジウムの講演内容を更に詳しく解説した一冊となっています。



◆体裁 A5判 約200ページ

■主な収載項目■

- 第1章「降雨パターンの変動と林地災害の激甚化」 大丸 裕武（森林総合研究所 森林研究部門）
- 第2章「変動する海流システムと水産資源の持続可能性」 中田 英昭（長崎大学水産学部）
- 第3章「環境変動が雑草の生態や管理に及ぼす影響」 與語 靖洋（農研機構 農業環境変動研究センター）
- 第4章「地球温暖化によって果樹の栽培適地はどうかわる？」 杉浦 俊彦（農研機構 果樹茶業研究部門）
- 第5章「塩からい水で魚と野菜を育てる-乾燥地での持続的な食料生産をめざして-」 山田 智（鳥取大学農学部）
- 第6章「地球温暖化から家畜生産を守る ～適応技術開発の取り組み～」 永西 修（農研機構 畜産研究部門）
- 第7章「パイプライン用水路が持つ夏季灌漑水温の上昇抑制効果」 坂田 賢（農研機構 中央農業研究センター）
- 第8章「国際的な新興病害虫リスクの管理に向けた取組」 大藤 泰雄（農研機構 中央農業研究センター）
- 第9章「地球環境と食料・農業に関する国際的な科学と社会のコミュニケーション」 八木 一行（農研機構 農業環境変動研究センター）

一般社団法人日本農学会

〒113-8657 東京都文京区弥生 1-1-1

TEL:03-5842-2287 FAX:03-5842-2237

URL: www.ajass.jp mail: office@ajass.jp